

ウィキメディア財団一般支援基金

ウィキメディア財団協定基金

中間期の会話

受給パートナーとプログラム責任者が参加

この用紙の使い方のガイドライン

プログラム責任者(PO)は受給者の皆さんと会話を交わし、この用紙の記入に責任をもちます。ただしPOの裁量により、この会話の時間は企画規模や目標もしくはテーマの方向性が近い複数の受給対象事業の皆さんとグループ面談にする場合があります。またウィキメディア財団の地域助成金委員会ほか他のチーム※から職員が同席し質疑応答をお願いすることがあります(※＝プログラム、学習と評価、管理運営)。協議の下敷きとなる中間期の報告がないため、次の基本的な質問4件を受給者の皆さんと事前に共有しますので、あらかじめ内容をまとめておいてください。

直面した課題に関して、受給者の皆さんはどうか気をつかわず、ざっくばらんに話をしていただけないでしょうか。特に事前の予想とは少し違ってうまく進んでいないことなどは相互の学びであり、あるいはどの部分に補佐が必要か見きわめるなど、この会話はウィキメディア財団が何をどのように補佐すると良いか話し合う機会と捉えていただきたいし、受給者の皆さんが何か批判されたと感じられることなどは避けたい所存です。

第1部: 重要な成果

1. 皆さんあるいは皆さんの組織において、この段階で得た最大の成果とは何で、その理由を教えてください。

第2部: 課題

2. プロジェクトの前半で直面した課題とはどのようなもので、立案しておいた戦略をどのように順応または革新して、課題を克服しましたか？

第3部: サポートの需要

3. 目指す成果をあげたいのにお困りの場合、具体的にどんな支援もしくはリソースが足りないのが原因でしょうか？

第4部: 受給者の課題

4. 何か問題や気になっていて相談したいことはありませんか？（例：組織の統治・ガバナンス関連、コミュニティ関連、ウィキ・プロジェクトに関して、あるいは衝突その他）

第5部: 学習の課題¹（任意）

5.1. 予想外のものごとに遭遇した場合で、対処するのに調べたり教えてもらう必要があったのはどんなことですか？

5.2. 今年はこれを身に付けようと計画している物事は何ですか？

5.3. 皆さんが「変化の理論」²に沿って活動しているとき、上記の学びがそれを左右する、もしくは「こうなるだろう」と予測したことにどんな影響を与えましたか？

学びの文化を促すには、プログラム立案の一般的な手法、「変化の理論」その他の論理のフレームワークに取り組むこと、さらに実施中の学びが将来の影響にどんな影響を与えるか（指標または学びの定質分析を使って）考えるよう受給者の皆さんにお勧めしたいのです。探求したいテーマはもっと深くて大きいんだけど、そのような探求にどう対処すれば良いのか技術力や予算が追いつかない、あるいは能力を伸ばしたいなら、他の人との協働も良いし研究基金助成金の申請もできます。学びのための質問をきちんと理解するなら[手軽なガイドもあり](#)、他にも右記にガイドやチュートリアルをまとめてあります。申請者対象の学習と評価のコツと例題集

ウィキメディア財団助成金のチュートリアル1: 初めて申請してみた

時間を割いて皆さんの学びと反省を共有していただき、ありがとうございます。この重要な段階で会話の時間を持ち、皆さんの企画についてさらに詳しく学びつつ、今後の数か月間に当チームからどういうサポートをすると最良か、見つけたいと考えています。どうぞよろしくお願いします。

¹ 学習の課題=Learning topics。

² 変化の理論=Theory of Change。